

## 4. 教育領域における臨床心理士の現状

### ➤ 働いている機関:

自治体の設置する**教育相談室**や**教育センター**

小中高等学校における**スクールカウンセラー(SC)**

大学などの**学生相談室・保健管理センター**など

### ➤ 特別支援教育へのかかわり:

専門家チームや巡回相談員・支援員として携わる

日本臨床心理士会における**発達障害支援研修会**

(毎年**1,000名規模の研修会**を開催)

## 4-2. スクールカウンセラー(S C)

- ◆ 設置の経緯：  
1995年文部科学省によって、多発する児童生徒の心理的問題の解決のために、外部の専門職として臨床心理士を学校に導入する事業が開始される
- ◆ 配置数：(平成22年度)  
全国の小中高等学校 **総計15,862校** に配置  
臨床心理士 **4,569名** が勤務
- ◆ 雇用形態：  
すべて**非常勤雇用**(週2日、1日4時間、年間280時間が限度)  
**地域差が大きく**、学校現場の要請に十分に応えることが困難  
(中学校へのSC配置率(平成18年度)で、90～100%配置の都道府県は14)

## 5. 医療保健領域における臨床心理士の現状

### ➤ 働いている機関：

クリニック、子ども病院、総合病院、精神科病院、精神保健福祉センター、地域保健センター、さらに、医療観察法指定入院医療機関・指定通院医療機関など

### ➤ 働いている診療科：

がん緩和ケアチーム、リハビリテーションチーム、糖尿病医療チーム、周産期医療センターなど

（精神神経科で働く臨床心理士が多いが、チーム医療の機運の高まりから、各種医療チームへの参加が増加している）

### ➤ さまざまな疾患と向き合う患者・家族の心理的サポートを行うとともに、医療スタッフの心理的サポートも重要な役割となっている

## 5-2. 教育領域・医療領域における問題点と課題

- 今回の震災を契機に、学校における心理支援の役割の大きさを改めて捉えなおしたい。学校における児童生徒の個別のこころの健康のためというに留まらず、家族や地域も視野にした、他者を尊重し信頼する自然なこころのあり方に気付き共有する教育に寄与すべく、SC活動の視点を広げることが課題と考える。
- SCの雇用形態はすべて非常勤であり、**常勤化が望ましい**と考えられる。
- 医療領域で働く臨床心理士の雇用も、**非常勤職が中心**(病院・診療所1機関あたりの平均勤務日数は**2.7日**)であり、医療を通じて国民に十分に貢献できる状況は整っていない。
- 今後、国家資格化とともに、**必要としている国民みなが平等に心理支援を受けられるような環境**が整えられて行くのが望ましいと考える。